

18世紀前半までのハンプルクとブラウンシュヴァイクにおけるオペラ —上演の実態と両劇場の関係性

村瀬優花 愛知県立芸術大学大学院音楽研究科（音楽学領域）

要旨

ドイツのバロック・オペラは、オペラ史においてしばしば忘れ去られ、重要視されない存在である。17世紀後半から、ドイツ語圏の北部では公開劇場が作られるようになり、それまで宮廷の専有物であったオペラ劇場が市民に開かれるようになった。ドイツ語圏における最初の公開劇場は、1678年にハンプルクに設立されたゲンゼマルクト劇場である。これを手本として、1690年にはブラウンシュヴァイクのハーゲンマルクトに劇場が設立された。ゲンゼマルクト劇場の監督であったゲオルク・フィリップ・テレマン Georg Philipp Telemann (1681-1767) のオペラ《美の勝利 *Sieg der Schönheit*》(1722) は、ハンプルクでの初演後にブラウンシュヴァイクでも上演されたが、これらの上演の際にゲンゼマルクト劇場とハーゲンマルクト劇場との間で歌手の派遣が行われたことが先行研究でわかっている。そこで本論文では、ドイツ語オペラが上演されていた18世紀前半までのハンプルクとブラウンシュヴァイクの劇場に着目し、両劇場におけるオペラ上演の実態を解明するとともに、2つの劇場が歌手の派遣以外にいかなるつながりをもっていたのかを明らかにすることを目的とした。

論文全体は2章から構成される。第1章では、18世紀前半までのハンプルクとブラウンシュヴァイクにおいてオペラ以外にどのような音楽生活が営まれていたのか、それぞれの都市の当時の状況をふまえながら論じた。ハンプルクは港湾都市であり、海上貿易で栄えた。三十年戦争中も財政的に繁栄し、18世紀までに並外れた経済成長を遂げ、北ヨーロッパで最も重要な都市のひとつとなった。宗教改革でルター派プロテスタントを受け入れたことで、17世紀までに宗教音楽が興隆し、それに伴ってオルガン音楽が発展した。一方で、コレギウム・ムジクムによる公開演奏会の習慣、また楽譜出版の普及によってアマチュアの音楽活動が盛んになった。ハンプルクは帝国直属都市であり宮廷

に支配されなかったために、市民が力を持つことができ、宗教音楽よりも世俗の音楽が優位になっていったのである。ブラウンシュヴァイクは宮廷都市であり、ヴェルフ家に統治されていた。内陸都市であるブラウンシュヴァイクは、陸路でハンブルクを含むドイツ語圏のさまざまな都市と結ばれており、交通の要所であった。15世紀末からは夏の見本市と冬の見本市が開催されるようになり、これらの見本市は17世紀後半以降にさらなる発展を遂げ、市は経済的に繁栄した。宮廷は楽団を有し、16世紀後半には公爵の指示により宮廷合唱団 Hofkantorei も創設された。また、宗教改革以前の14世紀からすでに市のほぼすべての教会にオルガンが置かれており、何人もの優れたオルガン製作者がブラウンシュヴァイクにいた。当時の公爵はオルガンに特に関心を持ち、宮廷専属のオルガン製作者を雇ったり、オルガニストを集めて会合を行ったりしていた。ブラウンシュヴァイクにおける音楽の発展は、同地を治めていたヴェルフ家の影響を大きく受けたと言える。

第2章では、ハンブルクとブラウンシュヴァイクのオペラ劇場に焦点を当て、上演の実態を考察した。ハンブルクのゲンゼマルクト劇場は、市民による音楽の世俗化の流れのなかで設立された。世俗化を恐れ、劇場設立に反対していた聖職者たちを納得させるため、宗教的な題材のオペラを多く上演していたことが特徴である。また、上演は四旬節（復活祭前の46日間）を除いて、1年を通して行われていた。ブラウンシュヴァイクのハーゲンマルクト劇場は、芸術愛好家であった公爵の指示によって設立された。年に2回3週間ずつ開催された見本市の期間に上演が行われており、見本市に客を引き寄せるためのアトラクションであったとともに、ヴェルフ家の人物の誕生日や結婚式等祝宴のためのオペラも上演され、機械音楽としての側面も持っていた。そして、これまでに先行研究でまとめられている各劇場の上演演目の比較によって、2つの劇場が非常に似通ったレパートリーを持っていたことを明らかにした。筆者はさらに、各劇場の年ごとの初演数の比較、両劇場で共通して上演された作品の分析を行った。ハンブルクとブラウンシュヴァイクの全体の上演数を考慮すると、ブラウンシュヴァイクの方がより盛んに安定した数の初演が行われていたことを指摘した。また、ゲンゼマルクト劇場の初期から中期にかけての11作品がブラウンシュヴァイクにもたらされている。ハンブルク上演後、20年から30

年経過してからブラウンシュヴァイクに上演が行われた作品が見られるのも特徴である。一方、ブラウンシュヴァイクからは多くの作品がハンブルクにもたらされた。ハーゲンマルクト劇場のほぼ全時期にわたる 37 作品が、ブラウンシュヴァイク上演後ただちにゲンゼマルクト劇場でも上演されたことは特筆すべき点である。このことから、ハーゲンマルクト劇場はゲンゼマルクト劇場を手本として設立されたが、オペラの上演に関してはハーゲンマルクト劇場がゲンゼマルクト劇場に大きな影響を与えていたと言える。

以上の考察から、ハンブルクとブラウンシュヴァイクは帝国直属都市と宮廷都市で統治制度が全く異なり、その影響から音楽の発展やオペラ劇場設立の経緯にも相違があったが、オペラの上演という点において 2 つの劇場が繋がっていたということを明らかにすることができた。